

令和 7 年 6 月 19 日現在

機関番号：32692

研究種目：基盤研究(B) (特設分野研究)

研究期間：2019 ~ 2024

課題番号：19KT0003

研究課題名 (和文) 祭りの伝承における共同体 心体知 の体現から生まれる共在感覚の解明

研究課題名 (英文) An Inquiry into the Sense of Co-presence Emerging from the Embodied Transmission of Communal Ethos, Technique, and Knowledge in Festival Traditions

研究代表者

榎本 美香 (Enomoto, Mika)

東京工科大学・メディア学部・准教授

研究者番号：10454141

交付決定額 (研究期間全体)：(直接経費) 14,000,000 円

研究成果の概要 (和文)：本研究では、祭りを伝承する者たちが以下に示す共同体 心体知 を体現する様子を分析し、成員相互に生まれる共在感覚のあり方を解明した。心 は祭りの成功への使命感や志、先達への敬意や後継者への情愛といった集団的心性を指す。体 は木の伐り方や縄の結び方など物の操作において適切に他者との力配分や力の掛け方ができる協同身体技法を指す。知 は木材の名称や縄結びの呼称といった共有知識を指す。体 は 知 や 心 と三位一体である。他者との協同身体技法を得る中で、どこまで手をかけるかといった 心 や結び目や木材の呼称といった 知 も伝えられる。本研究では 体 と同時に 知 心 の体現過程を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の対象である共同体 心体知 は実践の中で初めて伝承されるものであり、言語化すればその本質が失われる類のものである。当然、実践者達本人も意識していない。よって、内省や聞き取り調査、偶発的な観察では研究できない。祭りの準備作業場面を10年間に渡りビデオ撮影し、各成員の会話・身体行動を1/30秒単位で心的構造変化のエビデンスを確実に抽出するという本研究の手法は、新しい「口承文化の科学」の創出である。

研究成果の概要 (英文)：This study investigates how individuals engaged in the transmission of festival traditions embody what may be termed communal ethos, technique, and knowledge, and seeks to elucidate the resulting sense of co-presence that emerges among participants. The term ethos refers to a collective disposition encompassing a sense of mission toward the successful execution of the festival, respect for predecessors, and affective commitment to successors. Technique denotes embodied collaborative practices, such as the appropriate distribution and application of physical force in activities like tree felling or rope tying. Knowledge refers to the shared conceptual lexicon, including the terminology for different types of wood or knots. This study clarifies not only the embodied techniques but also the processes through which ethos and knowledge are manifested and transmitted in practice.

研究分野：認知科学

キーワード：共同体 心体知 祭り 共在感覚 共有知識 協同身体技法 身体知研究 口承文化 無形文化財

1. 研究開始当初の背景

従来「祭りの伝承」は民俗学で扱われてきたがそれは歴史研究であった。本研究の対象である「道祖神祭り」も行事日程や祭祀物・斎場の全国的な比較の一部に過ぎなかった。これに対し、本研究では、祭りを執り行う人々そのものに焦点をあてる。そして、祭りの支度という身体的な相互作用を通じて、人々の中に生まれる彼我の境地を超えた共在感覚が芽生える過程を炙り出すという全く新しい学問的関心を切り開くものであった。

2. 研究の目的

本研究の目的は、祭りを伝承する者たちが以下に示す共同体 心体知を体現する様子を分析することで、成員相互に生まれる共在感覚のあり方を解明することである。

[心:] 祭りの成功への使命感や志、先達への敬意や後継者への情愛といった集合的心性

[体:] 木の伐り方や縄の結び方など物の操作において適切に他者との力配分や力の掛け方ができる協同身体技法

[知:] 社殿となる木材の名称、縄結びの呼称といった共有知識

この中で核となるのは 体 である。体 は容易に言語化できないが、後継者へ伝承するためには、何が肝心かを実演しつつ口頭で教える必要がある。しかし、その言葉で表される身体技法は後継者が自らの身体を使って物を操作する中で体得するしかない。ある時ある操作で、物を物的世界の様々な力(重力や張力等)に適合させられた瞬間、その言葉は身体に紐づき 体 となる。他者との協同身体技法を得る中で、どこまで手をかけるかといった 心 や結び目や木材の呼称といった 知 も伝えられる。体 と同時に 知 心 の体現過程も明らかにする。

3. 研究の方法

(1) 祭りの支度場面データの収録・整備(全員)

長野県野沢温泉村で行われる道祖神祭り(1/15)と湯澤神社例祭(9/8, 9)の担い手である「三夜講」(数え42歳に連なる3年代)の祭りの支度場面を、複数台で映像収録する。

複数人分のカメラ映像を合成し、発話を転記し、協同作業動作・視線・顔--身体の向き・ジェスチャー等を適宜符号化する。

(2) 共同体 心体知 の体現過程の分析

同時的協同の分析(高梨・阿部):世話人と見習いの同じ役職の者同士が同じ場で協同活動を行うことを通じて、祭りの共同体 心体知 を伝える方法を微視的マルチモーダル分析の手法で分析する。

経時的变化の分析(榎本・伝・寺岡):見習いから世話人・後見人という経時的な変化を経る中で、同じ個人が共同体 心体知 を体得する過程を微視的マルチモーダル分析の手法で分析する。

(3) 共在感覚醸成のモデル化(全員)

(2)の結果を多角的・総合的に考察して、共在感覚が醸成される過程をモデル化する。

4. 研究成果

(1) 祭りの支度場面データの収録・整備

当初の予定では、2019年度～2021年度の3年間のデータ撮影を予定していたが、2020年度にコロナ禍が始まり、2020年度は祭りが中止された。2021年度も規模をかなり縮小して祭りが実施されたため、ほとんど撮影はできなかった。そのため2024年度まで科研費の繰越しを行い、期間を延長して撮影を行った。2022年度にはほぼコロナ前の規模で祭りが準備されるようになつたため、実質4年分のデータを撮影することができた。

(2) 共同体 心体知 の体現過程の分析

同時的協同の分析

a. 物の個性と道具の特性に関する経験の共有(高梨克也):事例分析を通じて、メンバーたちが操作対象となっている材木の非定型性(いびつさ)に応じて的確な操作方法をその都度創発的に見出しているということと、こうした点での判断と動作には、これと相即的なものとして、成員ごとの特性や求められる規範といった次元もまた現わってくるということを明らかにした。極めて微細な作業の繰り返しとそこでのきめ細かな心的相互作用の蓄積こそが「あんちゃん」と「おっさ」の間の強固な関係性を築いていく。

b. 祭りの再現可能性と自己決定(阿部廣二):彼らがまず巧みに絶対参照点の共有することを通して活動を開始すること、またできる限り情報を参照したのち、それでも情報が足りなかった場合に、位置を自己決定していくことを分析した。これら2つの実践を通して、祭りを世話人たちのオリジナルなものにしていき、自分たちのものにすることで、祭りに通底する一つのエースを得る。

経時的变化の分析

a. 猿田彦の舞に見る「わざ」の意識(寺岡丈博):拍子方の相互行為はいずれも重要な役割があり、「動」から「静」(あるいは「静」から「動」)に切り替わる前後や状況に応じて参与者間で調整できるため、舞の随所で「ずれ」が生じない機構になっていることがわ

かった。拍子方の各自が経時に受け継いできたものには舞の動作や囃子の旋律や拍子だけではなく、「どの箇所を意識して合わせるのか」という拍子方全体では共有していない各々の「わざ」の意識も含まれている。

- b. **広大な野外で会話する人々の身体配置(伝康晴)** : 広大な野外における会話参与者たちの身体配置は、物理環境や活動内容だけでなく、参与者たちの成員性に深く関わっている。その年に割り振られた成員性だけでなく、前棟梁・現役棟梁・現役委員長・次期委員長など経時に変化する成員性に応じて立ち位置も変わる。
- c. **目の前の活動に「手を出す」力(榎本美香)** : 準備作業では、雪面に這いつくばって穴を掘る人、手が燃えそうになりながら松明を振り回す人など身を尽くす人々がいる。このエーストスは一つ一つが極々些細に見える行動によって培われる。もし自分が手を抜けば、仲間の誰かがそれをやる。誰かの手を借りることは全体の作業効率を下げることになる。それならば、自分のやるべきことを自分がやり抜いた方が良い。三夜講は三夜講に配属されている3年だけでなく、それを経験した年配の人の中にその精神を宿し続け、それが子どもに伝わって、三夜講を経験していない若い子たちの精神を育む。

(3) 共在感覚醸成のモデル化

仲間内での対立、年配層からの苦言、膨大な作業など自分で解決できない問題に対処するために、共同体 心体知 を同一にする他者を拠り所とする時、我も彼も物的世界の上で一繋がりであるという共在感覚に至るというモデルを構築した(図1)。

国内外の位置づけと今後の展望

地域からの人口流出と少子高齢化に伴い、日本各地の祭りは、野沢に見るような地域共同体の母体という役割が希薄化している。祭りを実行するために、地域外住民の加勢を依頼するが多く、その者たちは祭りの時だけ参加し、地域住民との交流なく去っていくため、共同体 心体知 の形成に至らない。野沢のような伝統的村社会における祭りの役割をモデル化した本研究は非常に希少なものである。

海外に目をむければ、キリスト教やイスラム教の支配により、祭りは画一化されている。英国エдинバラの「ベルティンの火祭り」などかつての古代ケルト人の祭りがあったが、キリスト教によって上書きされており、何が行われていたのかという資料すら無い。国際学会で本研究を発表したおり(Enomoto&Den, 2024)、我々の収録している資料映像を電子博物館等で展示できないのではないかと言われた。世界的にみても非常に貴重なデータである。

野沢惣代事務所には江戸時代から祭りの出納帳が残っており、近年のAI技術を用いれば、現代の資料と映像データから当時の祭りを推定することは可能だと考えられる。今後、野沢での祭りの変化を追うとともに、今ある祭りの存在を永く後世に残す手立てを考えねばならない。

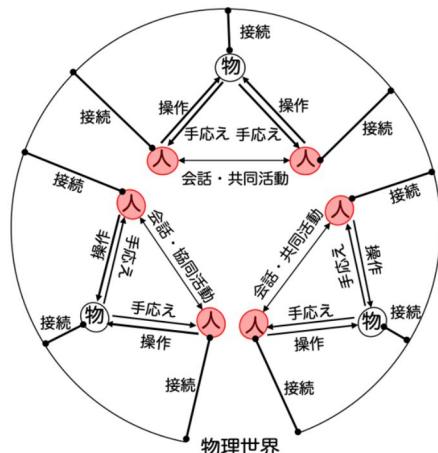


図1 共同体 心体知 による共在感覚のモデル

5. 主な発表論文等

[雑誌論文] 計30件 (うち査読付論文 13件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 9件)

1. 著者名 Mika Enomoto & Yasuharu Den	4. 卷 IEVC 2024
2. 論文標題 CHRONOLOGICAL CHANGES IN THE FORM OF FESTIVAL PREPARATIONWORKS AND THEIR INFLUENCE ON THE LOCAL COMMUNITY BONDS	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 The 8th IIEEJ International Conference on Image Electronics and Visual Computing	6. 最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 又村拓也・榎本美香	4. 卷 SIG-SLUD-100
2. 論文標題 連鎖終端位置における同時発話開始減少について	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 人工知能学会研究会資料 言語・音声理解と対話処理研究会	6. 最初と最後の頁 176-179
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11517/jsaislud.100.0_176	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 榎本美香・伝康晴	4. 卷 SIG-SLUD-098
2. 論文標題 祭りの準備作業の変遷が地域コミュニティの絆に及ぼす影響	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 人工知能学会研究会資料 言語・音声理解と対話処理研究会	6. 最初と最後の頁 43-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11517/jsaislud.98.0_43	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 榎本美香	4. 卷 第48回大会発表論文集
2. 論文標題 心の中のごろごろとした感触を紡ぐ	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 社会言語科学会 第48回大会発表論文集	6. 最初と最後の頁 404-406
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿部廣二	4. 卷 SIG-SLUD-098
2. 論文標題 重いものを受け渡す際の掛け声の相互行為上の機能	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 人工知能学会研究会資料 言語・音声理解と対話処理研究会	6. 最初と最後の頁 49-56
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.11517/jsaislud.98.0_49	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿部廣二	4. 卷 第40回大会
2. 論文標題 重いものを受け渡す際の掛け声「もらった」の相互行為上の機能	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本認知科学会	6. 最初と最後の頁 477-480
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿部廣二・大山星馬	4. 卷 印刷中
2. 論文標題 虫屋の採集技法：「野生のナビゲーション」としての昆虫採集	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 認知科学	6. 最初と最後の頁 未定
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.11225/cs.2023.081	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 高梨克也, 坂井田瑠衣, 安井永子, 山本敦, 檜本剛士, 片岡邦好, 古山宣洋	4. 卷 48
2. 論文標題 相互行為中の身体動作を対象としたマルチモーダル連鎖分析から身体記号学へ	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 社会言語科学会第48回研究大会発表論文集	6. 最初と最後の頁 391-400
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1.著者名 高梨克也	4.巻 SIG-SLUD-098
2.論文標題 相互行為分析を用いた地域高齢者の複層的調査に基づく地域コミュニケーション学の確立：その狙いと工夫	5.発行年 2023年
3.雑誌名 人工知能学会研究会資料言語・音声理解と対話処理研究会	6.最初と最後の頁 13-18
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1.著者名 Amika Chino & Takehiro Teraoka	4.巻 14027
2.論文標題 Relevance-Aware Question Generation in Non-task-Oriented Dialogue Systems	5.発行年 2023年
3.雑誌名 Virtual, Augmented and Mixed Reality	6.最初と最後の頁 344-358
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/978-3-031-35634-6_24	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1.著者名 Yamasaki Shota, Teraoka Takehiro	4.巻 13323
2.論文標題 Focus Estimation Using Associative Information to_Support Understanding of_Art	5.発行年 2022年
3.雑誌名 Design, User Experience, and Usability: Design Thinking and Practice in Contemporary and Emerging Technologies	6.最初と最後の頁 279 ~ 288
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/978-3-031-05906-3_21	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1.著者名 榎本 美香	4.巻 29
2.論文標題 解説特集「リアル・ワールドにある秩序を探る：フィールドワーク最前線」編集にあたって	5.発行年 2022年
3.雑誌名 認知科学	6.最初と最後の頁 650 ~ 651
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.11225/cs.2022.060	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 橋本 樹、榎本 美香	4. 卷 95
2. 論文標題 多人数インタラクションにおける参与者再編成システムの提案～分裂と統合に関する体系的記述～	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 人工知能学会研究会資料 言語・音声理解と対話処理研究会	6. 最初と最後の頁 20～25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11517/jsaislud.95.0_20	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中野 真弓、榎本 美香	4. 卷 95
2. 論文標題 マルチアクティビティにおける活動変遷パターンの解明	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 人工知能学会研究会資料 言語・音声理解と対話処理研究会	6. 最初と最後の頁 26～31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11517/jsaislud.95.0_26	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高梨 克也	4. 卷 37
2. 論文標題 生態学的相互行為分析から見た「私の経験」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 人工知能	6. 最初と最後の頁 735～742
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11517/jjsai.37.6_735	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 若月美希・榎本美香	4. 卷 SIG-SLUD-092
2. 論文標題 聞き手の参与役割に応じたあいづちと笑いの種類とその生起位置	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 人工知能学会研究会資料	6. 最初と最後の頁 15-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1.著者名 橋本樹・榎本美香	4.巻 SIG-SLUD-93
2.論文標題 会話はいかにして分裂し、統合するのか	5.発行年 2021年
3.雑誌名 人工知能学会研究会資料	6.最初と最後の頁 80-85
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1.著者名 榎本美香・伝 康晴	4.巻 23巻1号
2.論文標題 共同体「心体知」の学習 共同参与から学ぶ成員の心がけ	5.発行年 2020年
3.雑誌名 社会言語科学	6.最初と最後の頁 69--83
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1.著者名 榎本美香・伝 康晴	4.巻 27巻2号
2.論文標題 物的世界と相生する身体技法の習得に関する論考：言葉の藁にすがって水をよじ登る	5.発行年 2020年
3.雑誌名 認知科学	6.最初と最後の頁 95--109
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.11225/cs.2020.009	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1.著者名 寺岡 文博	4.巻 27巻2号
2.論文標題 比喩理解に関する自然言語処理研究の紹介	5.発行年 2020年
3.雑誌名 認知科学	6.最初と最後の頁 272--232
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.11225/cs.2020.015	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1.著者名 Masaki Hayashi, Steven Bachelder, Naoya Tsuruta, Takehiro Teraoka, Yoshihisa Kanematsu, Kazuo Sasaki, and Kunio Kondo	4.巻 Volume 25,_Issue 1
2.論文標題 Automatic Generation of News Contents from Blog Posts	5.発行年 2021年
3.雑誌名 International Journal of Asia Digital Art and Design Association	6.最初と最後の頁 1--7
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.20668/adada.25.1_1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1.著者名 榎本美香	4.巻 27
2.論文標題 物的世界と相生する身体技法の習得に関する論考：言葉の藁にすがって水をよじ登る	5.発行年 2020年
3.雑誌名 認知科学	6.最初と最後の頁 95-109
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1.著者名 伝 康晴	4.巻 21
2.論文標題 伝達意図ヒアドレス性	5.発行年 2020年
3.雑誌名 語用論研究	6.最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1.著者名 Katsuya Takanashi and Yasuharu Den	4.巻 37
2.論文標題 Field interaction analysis: A second-person viewpoint approach to maai	5.発行年 2019年
3.雑誌名 New Generation Computing	6.最初と最後の頁 263-283
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s00354-019-00062-2	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1.著者名 Kei Kano, Mitsuru Kudo, Go Yoshizawa, Eri Mizumachi, Makiko Suga, Naonori Akiya, Kuniyoshi Ebina, Takayuki Goto, Masayuki Itoh, Ayami Joh, Haruhiko Maenami, Toshifumi Minamoto, Mikihiko Mori, Yoshitaka Morimura, Tamaki Motoki, Akie Nakayama, Katsuya Takanashi	4.巻 8(03)
2.論文標題 How science, technology and innovation can be placed in broader visions?: Public opinions from inclusive public engagement activities.	5.発行年 2019年
3.雑誌名 Journal of Science Communication	6.最初と最後の頁 A02: 1-19.
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.22323/2.18030202	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1.著者名 Mika Enomoto and Katsuya Takanashi	4.巻 2019
2.論文標題 Multimodal interaction analysis of the usage of Japanese spatio-temporal deixis “KORE” and “SORE” in cooperative activities within intricate material environments.	5.発行年 2019年
3.雑誌名 The 6th IIEEJ International Conference on Image Electronics and Visual Computing (IEVC 2019)	6.最初と最後の頁 4C-4 (全4頁)
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1.著者名 Masasuke Yasumoto and Takehiro Teraoka	4.巻 1033
2.論文標題 Application of Archery to VR Interface	5.発行年 2019年
3.雑誌名 HCI International 2019 - Posters. HCII 2019. Communications in Computer and Information Science	6.最初と最後の頁 90-95
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/978-3-030-23528-4_13	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1.著者名 寺岡丈博, 橋田浩一	4.巻 26
2.論文標題 石崎俊 フェロー	5.発行年 2019年
3.雑誌名 認知科学	6.最初と最後の頁 299-304
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.11225/jcss.26.299	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1.著者名 Yuichi Ishimoto, Takehiro Teraoka, and Mika Enomoto	4.巻 COCOSDA 2019
2.論文標題 An Investigation of Prosodic Features Related to Next Speaker Selection in Spontaneous Japanese Conversation	5.発行年 2019年
3.雑誌名 2019 22nd Conference of the Oriental COCOSDA International Committee for the Co-ordination and Standardisation of Speech Databases and Assessment Techniques (O-COCOSDA)	6.最初と最後の頁 1-5
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1109/O-COCOSDA46868.2019.9041205	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1.著者名 Masasuke Yasumoto and Takehiro Teraoka	4.巻 ADADA 2019
2.論文標題 CUBISTA: Applying Medical Information to Art	5.発行年 2019年
3.雑誌名 Proceedings of 17th International Conference of Asia Digital Art and Design (ADADA)	6.最初と最後の頁 138-142
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計50件(うち招待講演 4件 / うち国際学会 8件)

1.発表者名 Mika Enomoto & Yasuharu Den
2.発表標題 CHRONOLOGICAL CHANGES IN THE FORM OF FESTIVAL PREPARATIONWORKS AND THEIR INFLUENCE ON THE LOCAL COMMUNITY BONDS
3.学会等名 The 8th IIEEJ International Conference on Image Electronics and Visual Computing (IEVC 2024) (国際学会)
4.発表年 2024年

1.発表者名 又村拓也・榎本美香
2.発表標題 連鎖終端位置における同時発話開始減少について
3.学会等名 言語・音声理解と対話処理研究会 第100回
4.発表年 2024年

1 . 発表者名 榎本美香・伝康晴
2 . 発表標題 祭りの準備作業の変遷が地域コミュニティの絆に及ぼす影響
3 . 学会等名 言語・音声理解と対話処理研究会 第98回
4 . 発表年 2023年

1 . 発表者名 榎本美香
2 . 発表標題 心の中のごろごろとした感触を紡ぐ
3 . 学会等名 社会言語科学会 第48回大会
4 . 発表年 2024年

1 . 発表者名 阿部廣二
2 . 発表標題 重いものを受け渡す際の掛け声の相互行為上の機能
3 . 学会等名 人工知能学会研究会資料 言語・音声理解と対話処理研究会
4 . 発表年 2023年

1 . 発表者名 阿部廣二
2 . 発表標題 重いものを受け渡す際の掛け声「もらった」の相互行為上の機能
3 . 学会等名 日本認知科学会（国際学会）
4 . 発表年 2023年

1. 発表者名 高梨克也
2. 発表標題 相互行為と他者の情動：プラグマティズムの系譜から
3. 学会等名 科研費基盤研究B(21H00650)「仮想空間における宗教的遠隔治療に関する情動・感覚の文化人類学的研究」主催シンポジウム「情動と仮想空間 - 感覚を通じた距離と共在の再考」(招待講演)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 高梨克也
2. 発表標題 アドレス行動の認知語用論的モデル化
3. 学会等名 日本語用論学会第26回(2023年度)大会ワークショップ1「会話における発話のアドレス性」
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 高梨克也
2. 発表標題 他者行動の理解における動作の時間的特徴の重要性
3. 学会等名 日本質的心理学会第20回大会会員企画シンポジウム18「行動の時間的特徴とその表現技法 - 静止画による動作の表現可能性をめぐって -」
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 高梨克也
2. 発表標題 指定討論：「理解する」ことから「理解している」ことへの遡行
3. 学会等名 2023年度日本認知科学会第40回大会オーガナイズドセッションOS01「行為と活動から「理解」を考える」(招待講演)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 高梨克也
2. 発表標題 「他者の認知の利用」と指標記号
3. 学会等名 コミュニケーションの自然誌研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Amika Chino & Takehiro Teraoka
2. 発表標題 Relevance-Aware Question Generation in Non-task-Oriented Dialogue Systems
3. 学会等名 25th International Conference on Human-Computer Interaction (HCI International 2023) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 秋山陸・寺岡丈博
2. 発表標題 焦点ベクトルによる文脈を考慮した物語文の自動生成
3. 学会等名 2023年度人工知能学会全国大会（第37回）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 千野愛実花・寺岡丈博
2. 発表標題 ユーザの回答に依存した疑問詞の同定とその効果
3. 学会等名 2023年度人工知能学会全国大会（第37回）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 閻思宇・千野愛実花・寺岡丈博
2. 発表標題 事象・動作に基づいたオノマトペの日中機械翻訳
3. 学会等名 情報処理学会第86回全国大会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 大澤拓巳・寺岡丈博
2. 発表標題 曖昧性を持つ形容表現の極性変化
3. 学会等名 情報処理学会第86回全国大会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 塙田晃平・寺岡丈博
2. 発表標題 状況と発話の対極関係に基づいた皮肉表現の検出
3. 学会等名 情報処理学会第85回全国大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 千野愛実花・寺岡丈博
2. 発表標題 非タスク指向型対話システムにおける関連性を考慮した質問生成
3. 学会等名 情報処理学会第85回全国大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Amika Chino, Takehiro Teraoka
2. 発表標題 Relevance-aware Question Generation in Non-task-oriented Dialogue Systems
3. 学会等名 25th International Conference on Human-Computer Interaction (HCI International 2023) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 童 権・森川美幸・榎本美香
2. 発表標題 新型コロナウイルスに関する新聞報道の時系列変化の日中米比較
3. 学会等名 言語処理学会 第29回年次大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 伝康晴
2. 発表標題 AIからフィールド、偶然と必然、恩師、反抗心
3. 学会等名 日本認知科学会第39回大会オーガナイズドセッション「「生きる」と向き合う私の「生き様」を語る」
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 宮崎太我・榎本美香
2. 発表標題 二者間バイアス区間における3人目の振る舞い
3. 学会等名 日本認知科学会第38回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 榎本美香・伝康晴
2. 発表標題 複数の学び手がいる場での役割に応じた身体の位置取り
3. 学会等名 日本認知科学会「間合い」研究分科会第19回研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 伝康晴
2. 発表標題 文化の伝承を支える他者との向き合い方
3. 学会等名 第14回共創学研究会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 伊藤清晃・寺岡丈博
2. 発表標題 日本語照応解析における深層格推定に基づいた先行詞の同定
3. 学会等名 言語処理学会第28回年次大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山崎翔太・寺岡丈博
2. 発表標題 連想情報と時系列を考慮した文章の焦点推定による対話破綻検出
3. 学会等名 言語処理学会第28回年次大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 秋山陸・寺岡丈博
2. 発表標題 事象の連想と共に起性に基づいたマルコフ連鎖による文生成
3. 学会等名 教育システム情報学会2021年度学生研究発表会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 船藤裕文・寺岡丈博
2. 発表標題 単語置換を用いたBERTによる慣用句曖昧性解消
3. 学会等名 教育システム情報学会2021年度学生研究発表会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Shota Yamasaki, Takehiro Teraoka
2. 発表標題 Focus Estimation Using Associative Information to Support Understanding of Art
3. 学会等名 Focus Estimation Using Associative Information to Support Understanding of Art
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 阿部 廣二・大山 星馬
2. 発表標題 昆虫採集活動のエスノグラフィ：道具利用と主体性の観点から
3. 学会等名 日本質的心理学会第18回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 石本祐一・寺岡丈博・榎本美香
2. 発表標題 三人会話の次話者選択に関わる言語・音響特徴の分析
3. 学会等名 日本音響学会2020年春季研究発表会講演論文集
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 高梨克也
2. 発表標題 動作の前に力の大きさを決める
3. 学会等名 第89回人工知能学会言語・音声理解と対話処理研究会（パネルディスカッション「ビデオカメラパラドックス：我々は触ることにどこまで迫れるか」）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Masasuke Yasumoto, Kazumasa Shida, and Takehiro Teraoka
2. 発表標題 Possibility of Using High-Quality Bow Interface in VAIR Field
3. 学会等名 Design, User Experience, and Usability. Design for Contemporary Interactive Environments, Springer
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Takehiro Teraoka and Tetsuo Yamashita
2. 発表標題 Construction of Associative Vocabulary Learning System for Japanese Learners
3. 学会等名 Proceedings of the 34th Pacific Asia Conference on Language, Information and Computation (PACLIC 34)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kiyoaki Ito and Takehiro Teraoka
2. 発表標題 Deep Case Estimation and Japanese Anaphora Resolution with a Verb-Associative Concept Dictionary
3. 学会等名 2020 International Conference on Technologies and Applications of Artificial Intelligence (TAAI)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Hiroyuki Funato and Takehiro Teraoka
2. 発表標題 Disambiguation of Japanese Idiomatic Expressions Using Bias in Occurrence of Verbs
3. 学会等名 2020 International Conference on Technologies and Applications of Artificial Intelligence (TAAI)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Y. Ishimoto, T. Teraoka and M. Enomoto
2. 発表標題 An Investigation of Prosodic Features Related to Next Speaker Selection in Spontaneous Japanese Conversation
3. 学会等名 Oriental COCOSDA 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Mika Enomoto & Katsuya Takanashi
2. 発表標題 Multimodal Interaction Analysis of the Usage of Japanese Spatial-Temporal Deixis "KORE" and "SORE" in Cooperative Activities Within Intricate Material Environments
3. 学会等名 IEVC 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 榎本美香
2. 発表標題 認知の脱構造化を余儀なくさせる身体技法の習熟に関する論考－言葉の藁にすがって水をよじ登る－
3. 学会等名 日本認知科学会第36回大会発表論文集（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高梨克也
2. 発表標題 多職種連携における安心と信頼のための実践知の解明。
3. 学会等名 2019年度科学基礎論学会シンポジウム「安心と信頼の科学と哲学」（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高梨克也
2. 発表標題 成員性と物質 野沢温泉村道祖神祭りのフィールド調査から。
3. 学会等名 日本認知科学会第36回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 外山紀子・西尾千尋・高梨克也・根ヶ山光一・高田明
2. 発表標題 シンポジウム：歩行を起点とする発達のカスケード。
3. 学会等名 日本心理学会第83回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高梨克也
2. 発表標題 「慣れることを避ける」仕組み：コミュニティ生涯発達の観点から見た野沢温泉村三夜講.
3. 学会等名 日本質的心理学会第16回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 阿部廣二・高梨克也・細馬宏通
2. 発表標題 不寛容社会における教養を考える：相互行為分析の実践から.
3. 学会等名 日本質的心理学会第16回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Masasuke Yasumoto and Takehiro Teraoka
2. 発表標題 Physical e-Sports in VAIR Field system
3. 学会等名 SIGGRAPH Asia 2019 XR (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 船藤裕文, 寺岡丈博
2. 発表標題 動詞出現頻度の偏りを_いた慣_表現の曖昧性解消
3. 学会等名 情報処理学会第82回全国大会
4. 発表年 2020年

1 . 発表者名 伊藤清晃 , 寺岡丈博
2 . 発表標題 述語の連想情報を_いた_本語ゼロ照応解析
3 . 学会等名 情報処理学会第82回全国大会
4 . 発表年 2020年

1 . 発表者名 山崎翔太 , 寺岡丈博
2 . 発表標題 対話破綻の特徴に応じた回避_法の提案
3 . 学会等名 情報処理学会第82回全国大会
4 . 発表年 2020年

1 . 発表者名 石本祐一 , 寺岡丈博 , 檀本美香
2 . 発表標題 三人会話の次話者選択に関わる言語・音響特徴の分析
3 . 学会等名 日本音響学会2020年春季研究発表会
4 . 発表年 2020年

1 . 発表者名 横山 草介, 嶋口 裕基, 阿部 廣二, 松熊 亮
2 . 発表標題 ブルーナー文化心理学との対話, 心と文化をどう問うか?
3 . 学会等名 日本発達心理学会第31回大会
4 . 発表年 2020年

〔図書〕 計8件

1.著者名 高梨克也・坂井田瑠衣	4.発行年 2022年
2.出版社 東京大学出版会	5.総ページ数 38
3.書名 日常生活場面の相互行為分析（鈴木宏昭編, 認知科学講座3:心と社会）	
1.著者名 高梨克也	4.発行年 2021年
2.出版社 ナカニシヤ出版	5.総ページ数 14
3.書名 フィールド調査とビデオ記録を用いた対話の分析（研究者・研究職・大学院生のための対話トレーニング, 加納圭・水町衣里・城綾実・一方井祐子（編）, 47-60）	
1.著者名 高梨克也	4.発行年 2020年
2.出版社 ひつじ書房	5.総ページ数 31
3.書名 維持されるものとしての発話の権利：クライアントの意向を尊重もしくは利用する（発話の権利, 定延利行（編）, 165-195）	
1.著者名 細馬宏通・菊地浩平・榎本美香・伝康晴・木本幸憲	4.発行年 2019年
2.出版社 ひつじ書房	5.総ページ数 288
3.書名 ELAN入門－言語学・行動学からメディア研究まで	

1.著者名 諏訪正樹・伝康晴・坂井田瑠衣・高梨克也	4.発行年 2020年
2.出版社 春秋社	5.総ページ数 262
3.書名 「間合い」とは何か：二人称的身体論	

1.著者名 安井永子・杉浦秀行・高梨克也（編著）	4.発行年 2019年
2.出版社 ひじつ書房	5.総ページ数 272
3.書名 指さしと相互行為。	

1.著者名 高梨克也	4.発行年 2020年
2.出版社 春秋社	5.総ページ数 24
3.書名 ボールへの到達時間を予測する サッカーの間合い（諏訪正樹（編著），『間合い』とは何か 二人称的身体論）	

1.著者名 高梨克也	4.発行年 2019年
2.出版社 開拓社	5.総ページ数 22
3.書名 「他者の発話を理解すること」の生態学（田中廣明・秦かおり・吉田悦子・山口征孝（編），『動的語用論の構築へ向けて』第1巻	

〔産業財産権〕

〔その他〕

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	傳 康晴 (Den Yasuharu) (70291458)	千葉大学・大学院人文科学研究院・教授 (12501)	
研究分担者	寺岡 丈博 (Teraoka Takehiro) (30617329)	拓殖大学・工学部・准教授 (32638)	
研究分担者	高梨 克也 (Takanashi Katsuya) (30423049)	滋賀県立大学・人間文化学部・教授 (24201)	
研究分担者	阿部 廣二 (Abe Kouji) (60817188)	東京都立大学・大学教育センター・特任助教 (22604)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関